

# Asia Indicators

発表日: 2025年9月12日(金)

台湾、8月輸出も6ヶ月連続拡大で過去最大に(Asia Weekly(9/5~9/12))

~韓国、8月の雇用環境は高齢層で堅調も、若年層を中心に厳しさを増す対照的な状況に~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel:050-5474-7495)

## ○経済指標の振り返り

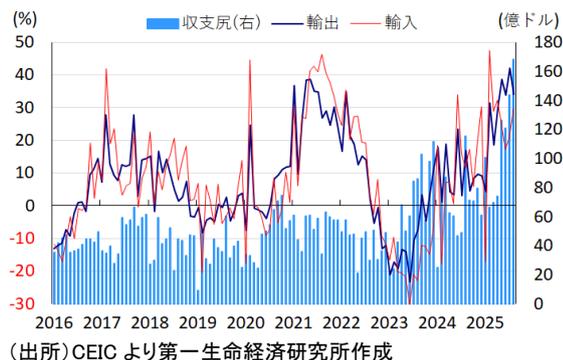
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
9/8(月)	(中国)8月輸出(前年比)	+4.4%	+5.0%	+7.2%
	8月輸入(前年比)	+1.3%	+3.0%	+4.1%
9/9(火)	(台湾)8月輸出(前年比)	+34.1%	+22.3%	+42.0%
	8月輸入(前年比)	+29.7%	+25.8%	+20.8%
9/10(水)	(韓国)8月失業率(季調済)	2.6%	--	2.5%
	(中国)8月消費者物価(前年比)	▲0.4%	▲0.2%	+0.0%
	8月生産者物価(前年比)	▲2.9%	▲2.9%	▲3.6%
9/11(木)	(マレーシア)7月鉱工業生産(前年比)	+4.2%	+2.1%	+2.9%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

## [台湾]~トランプ関税の影響が懸念されるも、輸出は全般的に拡大するなど底入れの動きが続いている~

9日に発表された8月の輸出額は前年同月比+34.1%となり、前月(同+42.0%)から伸びが鈍化している。ただし、前月比は+4.5%と前月(同+4.4%)から6ヶ月連続で拡大しており、月次ベースの輸出額は過去最大を更新するなど、底入れの動きが続いている。国別では、トランプ関税が20%と当初案(32%)から引き下げられたことも追い風に、米国向けは底堅い動きをみせるとともに、最大の輸出相手である中国本土向けも堅調に推移しているほか、日本向けや欧州向けなども拡大傾向が続くなど、旺盛な動きをみせている。財別でも、主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連で拡大が続いているほか、機械製品関連や金属関連、化学関連など幅広い分野で拡大が続くなど堅調な動きをみせている。一方の輸入額は前年同月比+29.7%となり、前月(同+20.8%)から伸びが加速している。前月比は+1.1%と前月(同▲0.4%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じるなど一進一退の動きをみせており、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど、輸出同様に堅調な動きをみせている。財別では、宝飾品関連を中心に輸入が大幅に拡大する動きがみられるほか、輸出の堅調さを反映して金属関連やプラスチック関連など素材、部材関連の輸入にも底堅さがみられるものの、商品市況の調整の動きが輸入額の重石となっている。結果、貿易収支は+168.29億ドルと前月(+143.42億ドル)から黒字幅が拡大している。

図1 TW 貿易動向の推移



### [韓国]～失業率はわずかに悪化も、高齢層の雇用に底堅さの一方、若年層を取り巻く環境は厳しさを増す～

10日に発表された8月の失業率(季調済)は2.6%となり、前月(2.5%)から0.1pt悪化している。失業者数は前月比+1.1万人と前月(同▲3.1万人)から5ヶ月ぶりの拡大に転じており、年代別でも50代や60代以上の高齢層で減少している一方、40代以下のすべての年代で増加する対照的な動きをみせている。一方の雇用者数は前月比+0.8万人と前月(同+0.2万人)から2ヶ月連続で拡大しているものの、年代別では50代や60代以上の高齢層を中心に拡大の動きがみられる一方、20代や40代を中心に減少する対照的な動きがみられる。雇用形態別でも、正規雇用は拡大しているものの、非正規雇用を中心に減少の動きが広がりを見せており、雇用を取り巻く環境が厳しさを増している様子がうかがえる。なお、労働参加率は64.4%と前月(64.4%)から横這いで推移しており、労働力人口は前月比+0.2万人と前月(同▲0.3万人)から5ヶ月ぶりの拡大に転じているものの、年代別では20代で大幅に減少する一方、60代以上で大幅に拡大する対照的な動きがみられ、高齢層の雇用に底堅さがみられる一方、若年層の雇用を取り巻く環境は厳しさを増していると捉えられる。事実、10代及び20代といった若年層に限れば、8月の失業率は5.7%と前月(5.5%)から0.2pt悪化するとともに、労働参加率も47.3%と前月(47.7%)から▲0.4pt低下していると試算されるなど、若年層の雇用環境は悪化している。

図2 KR 雇用環境の推移

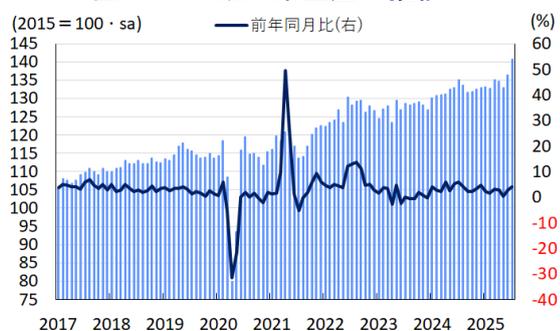


### [マレーシア]～トランプ関税の本格発動を前にした駆け込みを反映して、生産活動が押し上げられている模様～

11日に発表された7月の鉱工業生産は前年同月比+4.2%となり、前月(同+2.9%)から伸びが加速している。前月比も+3.09%と前月(同+2.64%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。分野別では、鉱業部門の生産が底入れの動きを強め

ている様子うかがえるとともに、トランプ関税の本格発動を前にした輸出の『駆け込み』の動きを反映して製造業の生産も大きく底入れするなど、足元の生産を押し上げている。さらに、経済活動の動向に連動する傾向がある発電量も3ヶ月連続で拡大しており、駆け込みの動きを反映して幅広く経済活動が活発化している様子もうかがえる。

図3 MY 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

以 上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。